

村越化石さんと俳句

なぜ、「魂の俳人」とよばれたのか？

化石さんの病気「ハンセン病」は、なおすことがとても難しい病気でした。体の見た目の様子から、まわりの人に伝染すると思われる、家族へのめいわくも考えて、遠くに出て行きました。16歳のときでした。

まわりの人びとの目からかくれるように治療をしていたころ、俳句を知ります。戦争も始まり、いつ死んでもおかしくない世の中で、りっぱな俳句の先生たちとの出あいがあり、化石さんの俳句はじょうずになっていきます。戦後には病気によくきく薬が出て、命は助かりましたが、その後もつらい障害が出ました。目も悪くなり、48歳で、ついに両方の目が見えなくなってしまうました。

そのような中でも、「心の俳句をつくる」という、先生の教えを胸にきざんでいた化石さんは、そんな自分のすべてを、そのまま受け入れるようになっていました。病気になったつらさや悲しみ、苦しみを乗り越え、命の大切さや力強さを俳句によむ化石さんは、いつしか「魂の俳人」と呼ばれるようになり、たくさんの賞をもらっています。「化石」という名まえは、自分の体はすでに土にうまれ、石となった「もの」だと考えて、自分でつけたそうです。

「……私にとって俳句は救いであった。自然をうたい、自分の存在を作品に残せたことは喜びであった。これからも自然とともに生きる俳句をつくりたい。自然を守り、日本語を守るためにも、俳句の火を消してはならないと思う。」

これは、80歳を迎えた年の、化石さんのことばです。

左に、村越化石さんの俳句をいくつか紹介します。



生き堪えて 七夕の文字 太く書く(昭26)

施設の俳句なかまで 七夕まつりをした。男の子・女の子それぞれ
の施設に住む 子どもたちにも来てもらい、いつしよにかざった。
生きているからこそ、できることだと思った。

生きねばや 鳥とて雪を 払い立つ(昭46)

寒い雪の中でも、鳥でさえ 雪を払って立ち上がる。

「玉露の里」にある、化石さんの句碑

私も、目が見えないという、苦しみやつらさを
乗り越えて 生きていこう。

望郷の 眼覚む 八十八夜かな(平7)

今日は八十八夜。故郷では、みんなが茶つみにいそがしい
ときだろう。

目には見えなくとも、お茶の香りで、子どもものしろの
なつかしいけしきが、思いだされる。



第16回 “魂の俳人” 藤枝市村越化石俳句大会 〈小学生の部〉 募集要項

村越化石さんは、大正11年に藤枝市岡部町で生まれました。難しい病気にかかり、家族から遠くはなれた場所にすみ、治療を受けました。つらい生活の中で有名な先生に俳句を教えてもらい、すばらしい俳句をつくるようになりました。戦後、新しい薬が出て、病気はなりましたが、48歳のときに両目が見えなくなりしました。化石さんは、目が見えなくても前向きですばらしい句をつくり、「魂(たましい)の俳人」と呼ばれるようになりました。しかし、さんねんなことに、平成26年3月に91歳でなくなりました。ぜひみなさんに村越化石さんを知ってもらい、俳句をつくる楽しさを学んでほしいと思います。きがるなきもちで俳句をつくり、おうぼをしてください。お待ちしています。

★応募のきまり… 1人1句です。左側の応募用紙を使用してください。

学校でとりまとめて応募してください。

必ず、一つの句の中に季語(き)・きせつをあらわすことば(は)を入れてつくってください。

★選者… 有馬朗人(ありま あきと) 俳誌「天為(てんい)」主宰 平成30年蛇笏賞受賞 (関森勝夫(せきもり かつお) 俳誌「蜻蛉(せいらい)」主宰)

★賞… 村越化石賞(1名) 市長賞(1名) 教育長賞(1名) 文化協会会長賞(1〜2名) 入選(10名程度)

★応募締切… 令和2年9月9日(水) ※学校への提出期限は学校の指示にしたがってください。

★主催 催… 藤枝市

★応募先 問合せ先 〒426-8722 藤枝市岡出山1丁目11番1号

藤枝市役所 街道・文化課

(電話番号) 054-643-3036

★表彰式… 令和2年12月6日(日) 予定 ※入賞者には事前に連絡します



3～6年生用

*応募用紙記載の個人情報は他に流用いたしません。

第16回 “魂の俳人” 藤枝市村越化石俳句大会 〈小学生の部〉 応募用紙

★学校名・学年を忘れずに。また、作品と氏名には、ふりがなをお願いします。

作品 (ふりがな)

学校名	小学校	年	氏名 (ふりがな)
-----	-----	---	-----------